

済州島一周サイクリング 2008

飛田雄一



私の自転車ことはじめ

最近、自転車にはまっている私。本通信のトップ記事、本来なら「研究レポート」のところにサイクリングネタを書くのには少々ためらうところがある。が、勇気をもって書くので、他に書くネタがなかったのだらうなどと言わずに支持してほしい。読者の支持がなければ会での地位すら危うくなってしまうのだ。

高校の時には北野町近くの再度筋から兵庫高校まで自転車通学をしていたが、とくに自転車青年であった訳ではない。サイクリングなるものもしたことがない。その私がいま「自転車中年」をしているのである。

06 年夏、強制連行調査グループが主催する済州島に残る日本軍の戦争遺跡を巡るフィールドワークに参加した。その詳細は、『むくげ通信』218 号(2006.9)をご覧ください。このフィールドワークに大阪の玄善允さんと白珠相さんが参加されていた。彼らは済州島一周サイクリングをしたというのである。それも毎年で、すでに 5、6 回実施したとのことだった。私はこの話に感動して帰国後すぐに自転車を買った。ママチャリではない 24 段切り替えのクロスバイクだ。翌年の済州島一周サイクリングに参加するためである。

購入後、毎日自転車に乗った。仕事で郵便局に行くのにも、西宮あたりまで会議に行くときも。なにせ自転車に乗りたいのである。私の自宅は鶴甲団地。神戸学生青年センターから北に 2 キロほどだが標高差が 150 メートルもある。でも自転車通勤をした。最初はゼエゼエドキドキであるが、よくしたものでそれなりに登れるようになるのである。下りは 5 分、登りは 30 分という感じである。

購入後 1 ヶ月ほどしてから六甲山にも登り、そのことを自転車屋さんに言ったらあきれられた。すごいスタミナ、巨大な太もも、と思われそうだがまったく違う。もともと登山の心得のある私は、坂道をかろうじて転ばない、歩いているのと変わらないようなスピードで長時間登るコツを身につけたのである。知る人ぞ知る漫画『シャカリキ』は神戸が舞台だと言われているが、その一番坂、二番坂、私の推測では長峰中学校と六甲中学の急坂にもチャレンジして成功し、ひとり悦にいたりもしている。(92 年～95 年、秋田書店、曾田正人著。全 18 巻のこの漫画、実におもしろい。貸出可。)

こうしてトレーニングをかさねて 07 年 9 月、済州島一周サイクリングに連れて行ってもらった。リーダーは先の玄さんと白さんである。一度実現すれば充分だと思っていた一周サイクリングだが、昨年(08 年)10 月、またしても行ってしまったのである。

さあ、関空から済州空港へ

サイクリングを初めたとき私には「2 大疑問」があった。ひとつは、NHK 中年サイクリング入門講座で普通の人々が 500m の山に登ったこと、もうひとつは玄さんのいう「5 分もあれば自転車を輪行袋に入れて列車に乗れる」である。驚きの内容だったが今の私には楽勝である。

2 回目となる昨年の済州島一周サイクリングは済州島までスムーズだった。1 年目はリムジンバスで関空まで自転車を運ぶことも、飛行機に乗せることも不安だった。が、今回は余裕綽々である。リムジンバス停留所で、自転車を輪行袋に入れている私を好奇の目で見る人々に、愛嬌をふりまいたりもする

ぐらいであった。うらやましいか……。



だいじなところをオシメのように補強

かくして済州空港に到着した。空港の荷物が出てくるところにいくと、すでに自転車だけは特別扱いでローラーの横のところに置かれていた。空港の外で自転車を組み立てるが、なんの問題もなかった。



少し雨模様なのでまず空港の食堂で軽くチゲを食べてからいよいよ出発である。今回も時計と反対周りに済

州島を一周するのだ。空港を東に回りこんでから海岸線を西に西にと軽快に走る。韓国の灯台は愛嬌がある。ここの灯台だけかもしれないが……。

(このバスが全コースを随走してくれる)

やがて翰林。港のチャンスン前で記念写真をとる。なかなかいい顔をしている。人間の方も……。



チャンスンと筆者



リーダーの白さんは、できるだけ車の少ない道を走ってくれる。自転車専用道も多いが、それだけでなく海のすぐそばの海岸道路は車も少なく自転車専用道路のようである。

一日目は軽く40キロ程度で、翰林グリーンビーチホテルに泊まる。ホテルというよりはモートルか。夕食は豪快に豚料理である。とても美味。飲んで食べた。ここまでのメンバーは7名。あす3名が合流することになっている。



豪快な豚料理

2日目 - 翰林から南元へ

翰林のモートルをそこそこの時間に出発する。昼ごろに遮鼻島をのぞむ高山に着く。前年のここの太刀魚とかぼちゃのスープが

あまりにも美味しくてまたやってきたのだ。この地域は亜熱帯の植物も生息し、自然保護地域に指定されている。また付近には新石器時代の遺跡もある。



太刀魚とかぼちゃのスープ

南下して済州島南西部に向かう。ここは日本軍が太平洋戦争末期に多くの朝鮮人を動員して作った軍事施設がたくさんあるところだ。



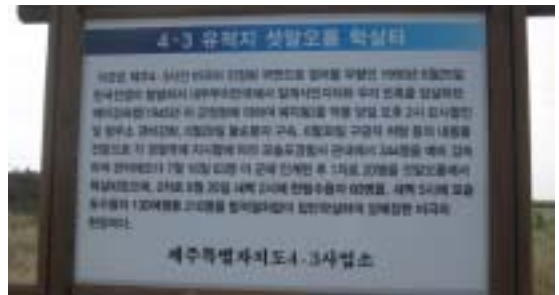
(掩体壕の跡、頑丈で壊せない)

「日帝戦跡施設 総括説明文」とい

う日本語、英語、中国語、朝鮮語の銘板も新たに設置されていた。「1945年4月には・・・第58軍事指令部を新設し、日本と満州から7万人あまりの大規模兵力を済州島に集結、駐屯させた」とある。地図もあり、滑走路、管制塔、掩体壕の場所などを確認することができる。

大静の済州島4・3事件のモニュメントが完成したとのことで、そこにも立ち寄った。前回は工事中で、大きな駐車場だけできていたが、今回、立派に完成していた。

このあたりは日本軍の施設がたくさんあり、それが4・3事件のときには、例えば弾薬庫がそのまま虐殺現場にもなったつらい歴史が残っている。



4・3遺跡地ソッサルオルム虐殺地入口の看板

この掲示によると1950年の朝鮮戦争時に344名が予備検束され210名が虐殺されたという。奥にすすむとモニュメント、詩碑があり、虐殺現場周辺に追慕の道もある。

さらに走って松岳山に着く。ここにも日本軍の塹壕、地下トンネルなどがたくさん残されている。展望台からは加波島、馬羅島またこのあたりの目印になっている山房山も美しく見えるところだ。



松岳山より山房山と兄弟島、



かぼちゃ飴の実演販売

海岸沿いにのこっている洞窟が、映画のロケでも使われた。そこでかの大長今のイヨンエが済州島に島流しされて針治療の練習をしたり、朝鮮で初めて帝王切開手術をする場面があるが、その洞窟も日本軍がつくったものだ。ドラマの時代考証としてはめちゃくちゃである。イヨンエの大きな看板もある。

そこは観光地になっており、飴売もでていた。大きな鋏をガチャガチャと鳴らしながら飴を売っている。この鋏、飴を切れそうにないと思っていたが、道具として使われている。板状の飴を切るときに鋏を金槌がわりに上手に使うのである。それもガチャガチャの伴奏いりである。このように観察させてもらったので、甘党でない私も1袋飴を買った。

横では、メガネを売っている。少々いかかわしく、それをつけると写真の人物の様子が変わって見えるのである。インテリ風の男性が本を読みながら販売しているので、いろいろ話をした。目をみればその人の健康状態がすべて分かる先生だという。東洋医学のひとつだそう。私は健康には問題がなさそうなので、診てもらいはしなかった。そのメガネも買わなかった。

遠くからずっと見えていた山房山には立派なお寺があるが、参拝はせずに先を急いだ。



山房山をバックに。真ん中が筆者

昼には済州島南部の中文リゾートに着いた。コンビニで思い思いのものを買って食べた。私はラーメンとおにぎり。けっこうおいしかった。韓国のコンビニにはどこでもお湯が利用でき便利である。



ラーメンとおにぎりを食べました

このコンビニで後続の3名と合流した。チャーターバスが、済州空港までその3人を迎えにいらしてくれていたのである。総勢10人となった。女性が1人である。昼食をすませてから西帰浦に向かう。西帰浦市内は車が多いので避け、「牛馬道」を行く。白さん発見の素敵な道で、海岸の絶壁の上にある。その絶景を見ると、ときどき自転車を担いで痛くなる肩も苦にならない。でも痛いのは痛い。



なんでサイクリングで自転車かつぐねん

この道で白さんのタイヤがパンク。いつもメンバーのパンクをにこにこしてくれる白さんのタイヤがパンクしたので、一同、安心？する。これまた大長今で有名なトルベゲもこの道沿いにある。看板の前のヘルメット姿は私である。



イヨンエと私



どこがパンクしてんねん

またこの道沿いにも日本軍が軍事施設をつくっている。米軍の沖縄上陸の次は済州島上陸であるとして、当時の日本軍が済州島南部に多く軍事施設を作ったのである。掲示板には「300m行けば日本軍が自爆魚雷『回天』を作った洞窟をみることができる」とある。

西帰浦ではちょうどお祭りをしていた。韓国の祭りには私もよく出かけた。江陵端午祭、公州民族文化祭、珍島霊登祭、安東仮面劇祭、いずれも神戸学生青年センター主催の「韓国祭ツアー」でとても懐かしい。このなかでも私の一番のお薦めは江陵端午祭だ。ほんもののムードンが祭りの中心地域で大活躍しているし、川の両岸、堤防の上と下に計8列の屋台が2～300メートル並ぶのである。サーカスまででている。是非、もう一度行きたいものだ。



韓国のお祭りに欠かせないアドバルーン

祭会場天地淵瀑布付近では、朝鮮民族の伝統遊びの紹介もあった。竹馬もコマも弓投げ

も。これも大長今がらみの？ 拷問椅子もあった。中学生のグループがテストをしていた。私は恐ろしくて参加せず、写真を写しただけだ。楽しい。



助けて～！！！！

竹笛製作コーナーにも寄ってみた。2本の竹を組み合わせて音のでる場所を探し、音が出れば瞬間接着剤でくっつけるのである。なかなかうまく行かない私は一所懸命説明員にとりいって完成品をもらってきた。



(竹笛)

きょうの目的地は南元。午後、けっこう観光しながらも無事に夕方に到着した。夕食は鰻の蒲焼、韓国焼肉スタイルの蒲焼で、はやり焼けてからハサミで切ってくれた。泊ったペンション「トンナム」は素敵なおとろだった。



ペンション「トンナム」



焼きあがったウナギの蒲焼をハサミで切る



フルメンバー。カメラマン・飛田

ペンション近くの映画村におられたアンソンギ。
神戸トークショーでは飛田が司会をしたのだ。

3日目、南元から日出峰へ

今回は3泊4日で済州島を一周することになっており、コース的に余裕がある。朝、南元を出発し済州島の南東部から徐々に北上することになる。日出峰がようやく見えるようになると右手にソプチコジが現れる。半島になっていて、イビョンホンの映画「オールイン」のロケ地として知られている。私はイビョンホンのファンだ。行かねばならない。

半島の先にそのロケ地がある。映画用の教会が中心だ。映画の最後の場面では、ヒロインのソンヘギョが暮らす修道院のあったところだ。修道院まで登らないメンバーもいたが私は一巡した。スターには会えなかったが、大きな写真は何枚もみた。



ソプチコジのセットの前で

(もちろんイビョンホンもいる)



そして城山日出峰だ。いつみても海からスクッと立つ姿が美しい。昼食には鮑粥をたらふく食べて、まだ時間があるので午後

に牛島を一周する。フェリーで牛島に渡り、ほぼ平坦な約10キロの島を回った。日本植民地支配の時代に海女の抗日闘争の歴史をもつ島でもあるが、立派なモニュメントもある。前回は牛島を一周しているが、初めてで余裕がなかったのか、今回気がついたのである。



フェリーで牛島にわたる



牛島海女抗日運動記念碑



牛島で牛は見なかったが犬を見た

牛島から日出峰にもどり、泊りは、とあるモーター、夕食は前回泊った城山浦トッペギ。ここの海鮮チゲは最高だ。07 年の済州島フィールドワーク後、4 名でタクシーをチャーターして日出峰に来たとき、運転手が薦めてくれた店だ。ほんとに美味しい(なんでもしつこい!)。日出峰も目の前でロケーションも抜群だ。リーダーの玄さんが電話で予約をしたらダメだったが、実際に来てみると空いていた。電話を受けただんなさんが商売熱心でなかったのか…。でもすでにモーターにチェックインしていたので、夕食だけいただくことにした。

この日出峰といえば前回の大トラブルが忘れられない。P さんが迷子になったのである。P さんが悪いのではない。我々のグループは泊りの場所があらかじめ決まっていたそれをメンバーが確認しているというグループではない。少し遅れていた P さんは、宿に入ったみんなに気がつかず、うろうろとしたのである。先に入り、自転車を駐輪場に回したメンバーがすぐに P さんのことに気

がつけば良かったのだが、みんな気づかずに風呂にも入ったのである。2 時間後に気がつき、タクシー、パトカー、自転車を総動員して捜した。P さんは、忽然と消えたメンバーを捜して、日出峰で誰かが迎えに来るだろうと待っていたが誰も来ない。そして更に前進したのである。結局、日出峰の派出所まで戻ってきた P さんと我々は涙の再会を果たしたのである。今回、P さんは、南元付近でペダルが固まって動かなくなり、チャーターバスで自転車屋まででかけて無事修理、無事合流となった。前年のトラブルに比べたらまことにちょろい。

4 日目、日出峰から済州市に

早朝、日の出を見るために懐中電気をもって 3 人で日出峰に登った。あいにくの天気で日の出をみることは出来なかった。山上からは城山の街の明かりがとてもきれいだったが、この通信の印刷では興ざめなので、後日、ブログにでもその素敵な写真を掲載することにする。



山頂でウサギをみて感動したがメタボぎみだった

日出峰を出発して昨日回った牛島を右に見ながら島の東部を北上する。みんな、それなりに元気だ。一般道に飽きたころには白さんが、自転車でしか通れないような田舎道も走ってくれる。

昼食は、けっこう捜してサムゲタン(参鶏湯)をいただく。有名店ということでそれなりに美味。宴会をしていた男性のひとりが消防署員でサイクリストとのこと。かなり酔っ

ていたが、「済州島の自転車専用道路は年々整備している。来年はもっといい道になっているから是非また来てほしい」などなど。最後は濃厚な抱擁をされて別れた。



途中、海岸道路開通記念マラソン大会をしていた

もう済州島も5分の4ぐらい回ったことになる。一路、済州市をめざして走った。このころになると快走ではないメンバーもでてきて、隊列は前後に大きく間延びする。そしてときどき迷子にもなるが(私でした)、全員無事に済州市のホテルに到着した。約250キロ。

基本的に済州島一周サイクリングは終了で、打ち上げは馬のフルコース。前菜?、スープ、ぎょうざ、しゃぶしゃぶなど、すべて馬だ。少々いきすぎの感もあるが、めったに食べるものではないのでいいか、と思う。



馬肉のぎょうざ

酔いが回ると話がすすむ。白さんのしゃれも炸裂する。余りに面白くてメモしたのをせっかくだから紹介する。どういう文脈でできたお話かの記憶は、ない。

トイレの水を流さない「大学生」。

大学生 = だい(大)がくせい(臭い)!

番外編の5日目です

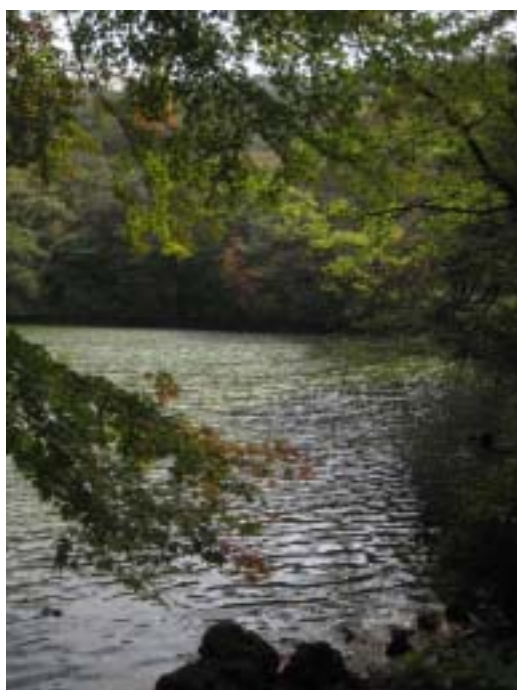
基本的な済州島一周サイクリングが終了してもなお残っているメンバーがいる。私もそのひとりだ。10人分の自転車をバスに積むのは難しいが、6人になるとOKだ。どこにでも行ける。標高の高いところまでバスでいって、一気に降りてくることになった。

目玉は、済州島のオルム(小さな火山)のなかで唯一水をたたえるムルチャッオルム。これも白さんの事前調査による。

朴正熙大統領がつくった「5・16道路」を登る。この5・16はご存知朴正熙クーデターの日。韓国民主化の過程でこの名前も変えられるのかと思っていたが、まだ健在だった。かなり標高のあるところでバスを降りて砂利道を進む。自転車で行けるところまで行って、最後は徒歩で急坂を20分ほど登った。そこには美しい湖があった。が、実を言うと木がうっそうとしていてもうひとつだった。展望台にいけばきれいかな、と思って更に登ったが、その展望はハルサン側。素晴らしい展望であることには違いなかった。展望台から湖方向の木を切り倒したらいい景色になると思うのだが、そんな勝手なことを考える方が不謹慎だ。反省!



美味・ケーブル



満々と水をたたえるムルチャオルム

ムルチャオルムを存分に楽しんだあとは、素敵なダウンヒルだ。どんどんと下るだけだ。いくら登りに強いサイクリストも下りの方が楽しくラクチンなのだ。

昼食は運転手お薦めのパジラクカルクス（あさりの麺）。これまた美味。

下って下ってピジャリム（榎子林）公園を最終地点とした。とてもいい公園で、榎かやの木が立派だ。



パジラクカルクス（あさりの麺）

園内散策ののち、自転車をたたんでバスに積み込む。車窓から済州島一周サイクリングの余韻を楽しみながら済州空港へと向かった。そして空港のレストランで最後の乾杯。空港では、友人のKCCスタッフ・金成元さんに会ってびっくり。また、同じく済州島一周サイクリングを試みたが飲みすぎで一週間も走ったのに半周しかできなかった高仁鳳さんグループにも会った。なんということか。



千年榎。樹齢は800年だが、21世紀の初めに命名。

いま、韓国の方には悪いが、円高でウオン安だ。昨年2月の訪韓では1万円が8万ウオンだったのに、今回は、初日が14万ウオン、最終日は15万ウオン。特に使うあてはなかったが、またしても両替をしてしまった。このウオンをもって、また済州島一周サイクリングに来なくてはならない。完全に済州島サイクリングに中毒症状である。

